

第1節 令和2年和歌山県産業連関表から見た県経済

1 概要

令和2年（2020年）和歌山県産業連関表（以下、「R2年県産業連関表」）は、令和2年1月から12月の1年間に県内において行われた様々な産業間の取引を一つの表にまとめたもので、これを見ると県内における財・サービスの流れや産業構造の全体像を把握することができます。ただし前提として、統計資料（一次統計）を中心に広範な資料を元データとして収集、整理し作成する加工統計（二次統計）にあたる産業連関表の結果は、推計値であるということに注意が必要です。

産業連関表には、分類の細かさに応じていくつかの種類があり、本県は部門数が多いものから順に、188部門（統合小分類）表、108部門（統合中分類）表、37部門（統合大分類）表、13部門表の4種類を作成しています。それぞれの表は、最も基本となる生産者価格評価表（取引基本表）をはじめ、そこから算出される各種係数を整理した諸表により構成されます。

ここでは、全体像を可能な限り単純に把握しやすくするため、通常より少ない3部門に集計した生産者価格評価表を図表1で示し、見方を説明します。まず、表の縦方向（列）は、各部門の県内生産額とその生産活動を行うためにどの部門の生産物をどれだけ購入（＝投入）したか、労働費用や営業余剰等がどのようなであったかという費用構成を示します。例を挙げると、県内の第1次産業は令和2年中に1,369億円分の生産活動を行い、そのうち587億円が各部門からの原材料購入、781億円が人件費や企業の利益等であったこととなります。他方、表の横方向（行）は各部門の生産物及び地域外からの移輸入品が各部門あるいは最終需要部門にどれだけ販売（＝産出）されたかという販路構成を示します。例を挙げると、前述の縦方向で生産された第1次産業の1,369億円と他地域から購入した413億円の合計は、原材料用途で559億円分が各部門と取引され、残る1,223億円のうち223億円分が消費や投資等で県内に、うち1,000億円分が県外に販売されたこととなります。

これらの性質から、産業連関表は「投入・産出表」とも呼ばれ、表をそのまま読み取るだけで県内の産業構造や産業相互間の依存関係等、本県経済の構造を把握できます。また、表から得られる各種係数表を利用することにより、経済の将来予測や経済施策の波及効果を測定する等、多様な分析を行うことも可能です。

図表1 R2年県産業連関表（3部門）生産者価格評価表

(億円)

供給部門	需要部門	中間需要				最終需要					[控除]	県内生産額
		第1次産業	第2次産業	第3次産業	合計	消費	投資	在庫	移輸出	合計	移輸入	
中間投入	第1次産業	103	397	59	559	196	20	7	1,000	1,223	▲413	1,369
	第2次産業	236	13,573	3,114	16,922	2,674	6,010	▲208	19,734	28,209	▲14,918	30,213
	第3次産業	248	4,107	9,601	13,956	24,958	2,250	6	3,206	30,421	▲8,824	35,554
	合計	587	18,077	12,774	31,438	27,828	8,281	▲196	23,940	59,853	▲24,156	67,135
粗付加価値	雇用者所得	274	5,230	11,907	17,411							
	営業余剰	292	2,742	3,515	6,549							
	資本減耗引当	179	3,091	5,878	9,147							
	その他	37	1,073	1,479	2,589							
	合計	781	12,136	22,780	35,697							
県内生産額		1,369	30,213	35,554	67,135							

(注) 四捨五入により合計が一致しない場合があります